『《標準言語聴覚障害学》失語症学 第４版』正誤表

このたびは『《標準言語聴覚障害学》失語症学 第４版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます．
第1刷（2025年11月15日発行）におきまして以下の誤りがございました．ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます．

2026年1月30日作成　2026年11月13日更新

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1	112ページ 下から6行目	反響言語や補充現象などがみられることもある．	反響言語や補完現象などがみられることもある．	2026/1/30
1	131ページ 図4-24, 25 画像のL, R表示	左側がL，右側がR	左側がR，右側がL	2026/7/8
1	282ページ 表8-1 類義語判断課題の評価の対象モジュール	音韻入力レキシコン	音韻入力レキシコンと意味システム間のリンク	2026/11/13
1	282ページ 表8-1 名詞・動詞の聴覚的理解課題、音声単語と絵のマッチング課題の評価の対象モジュール	聴覚～意味システム的音韻分析～意味システム	聴覚的音韻分析～意味システム	2026/11/13
1	297ページ 下から15行目 （a 日本語の統語理解障害の症状の10行目）	これにより，可逆文は非可逆文より，可逆文のうち**基本語順文**は**かきまぜ語順文**より，理解が困難といった症状がみられる．	これにより，可逆文は非可逆文より，可逆文のうち**かきまぜ語順文**は**基本語順文**より，理解が困難といった症状がみられる．	2026/5/12

医学書院